



はばたけ!

成田ブランド

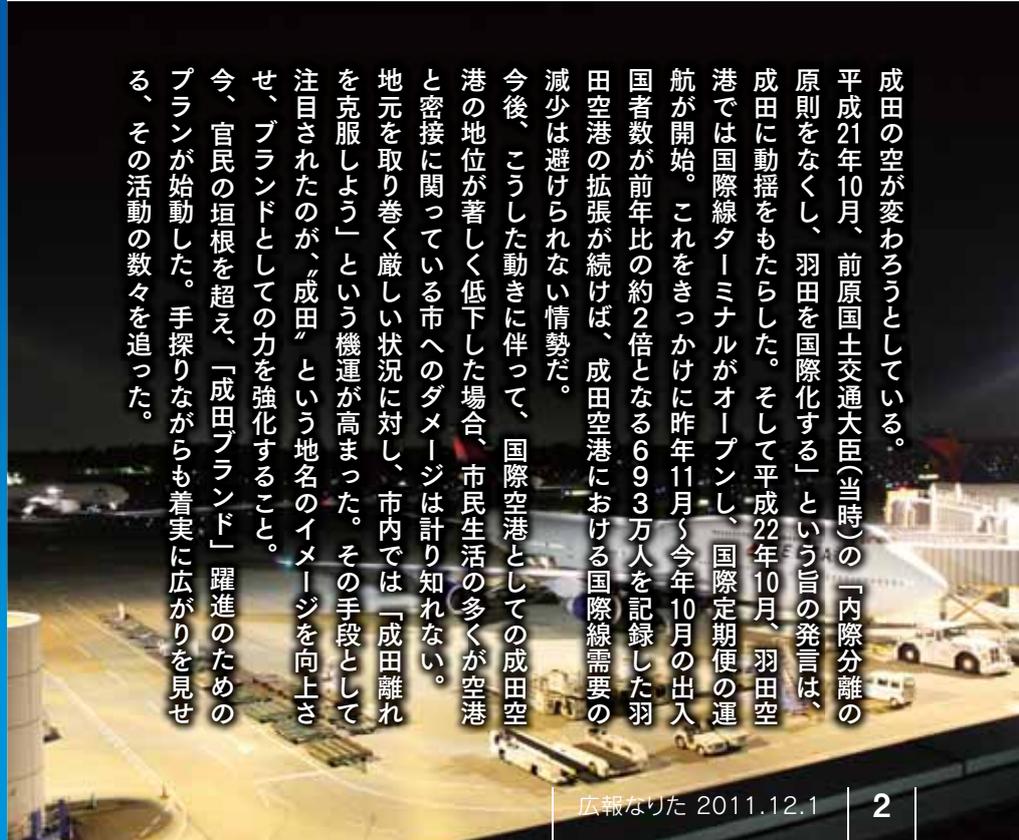
始動する官民協働のまちおこし



成田の空が変わろうとしている。
 平成21年10月、前原国土交通大臣(当時)の「内際分離の原則をなくし、羽田を国際化する」という旨の発言は、成田に動揺をもたらした。そして平成22年10月、羽田空港では国際線ターミナルがオープンし、国際定期便の運航が開始。これをきっかけに昨年11月〜今年10月の出入国者数が前年比の約2倍となる693万人を記録した羽田空港の拡張が続けば、成田空港における国際線需要の減少は避けられない情勢だ。

今後、こうした動きに伴って、国際空港としての成田空港の地位が著しく低下した場合、市民生活の多くが空港と密接に関っている市へのダメージは計り知れない。地元を取り巻く厳しい状況に対し、市内では「成田離れを克服しよう」という機運が高まった。その手段として注目されたのが、「成田」という地名のイメージを向上させ、ブランドとしての力を強化すること。

今、官民の垣根を超え、「成田ブランド」躍進のためのプランが始動した。手探りながらも着実に広がりを見せる、その活動の数々を追った。





成田ブランド推進の歩み

平成22年

7月 「成田空援隊」結成

訪日外国人向けイベント開催(空援隊)

9月 成富うどんPRイベント開催(空援隊)

12月 沖縄国際映画祭・地域発信型映画を誘致(空援隊)

観光モデルコースモニターツアーのプロデュース(空援隊)

平成23年

3月 航空機ファン向けイベント開催(空援隊)

5月 「成田ブランドスタートアップ・フォーラム」開催

「成田ブランド推進プロジェクトチーム」結成

6月 「ソラからジェシカ」凱旋上映イベント開催(空援隊)

7月 ヒューマックス成田にて、「ソラからジェシカ」上映

あんぱんの試作品第1号が完成(プロジェクトチーム)

9月 ウェブサイト「ロコナビナリタ」公開(プロジェクトチーム)

「成田ソラガール」結成(プロジェクトチーム)

11月 日本航空国際線機内にて、「ソラからジェシカ」上映

「ソラからジェシカ」凱旋上映イベントで仲町の坂に敷かれたレッドカーペット。映画の出演者などを一目見ようと、大勢の人が訪れた

「眠れるお宝」を探し出せ

「困難に直面したときだからこそ、新たにできることがある」。羽田空港の国際化で動揺する成田で、地元をもっと魅力的にしようという意志の下、官民の有志が集結した。その名を「成田空援隊」。



「成田ブランド スタートアップ・フォーラム」で小泉市長から委嘱状を手渡される空援隊

羽田空港国際化に

対抗するために

「成田のブランド力を強化するため、既存の観光資源などとは異なる、地域の新たな魅力を創出する必要があるのではないか」

学識経験者や地元経済人が集い、空港発展の将来像などについて議論が交わされる、成田空港成長戦略会議。

昨年3月に行われた会議の席では、羽田空港の国際化に対する危機感から、地元の新しい魅力を創出し、成田の名を今まで以上にPRすることの必要性を指摘する声が相次いだ。

しかし、それらを現実のものとするためには、誰かが行動を起こさなければならぬ。

立ち上がった

“トレジャーハンター”

そうした地元の声に応え、立ち上がった男たちがいる。その名を「成田空援隊」。「成田をもっと熱くしよう」という志を抱いて集まったメンバーは、市、成田空港、青年会議所、商工会議所などの中堅・若手だ。

彼らは考えた。「成田には、知名度不足のまま眠っているお宝

が少なからず存在するはず。これを掘り起こし、成田ブランドの躍進に役立てない手はない」

「眠れるお宝」として空援隊が目をつけたのが、市内の飲食店などで提供されている「成富うどん」だ。地元でひっそりと愛されていたこのご当地グルメを全国にPRしようと、空援隊は、試食イベントの開催、提供店舗を紹介するパンフレットの作成といった活動を展開。そうした取り組みが実を結び、成富うどんはテレビなどのメディアを通じて全国的に紹介され、その知名度は飛躍的に向上した。各店舗では関連商品の注文が増加し、多くの問い合わせが寄せられるようになったという。

また、昨年12月には、今年3月に開催された第3回沖縄国際映画祭のメインプログラムの一つ「地域発信型映画」の誘致に成功。2月に、映画「ソラからジェシカ」のロケが市内で行われた。

このほかにも、外国人観光客をおもてなしするイベントの開催や、航空機ファンを対象とした市内のホテル屋上の一般開放など、数々の活動を展開してきた空援隊。今後、それぞれのメンバーが所属する組織の枠にとらわれない、彼らの取り組みは続く。

成田空港 新管制方式で就航増加を目指す

快適な空港施設を目指し、利便性の向上が図られている成田空港。7～8月には、第2旅客ターミナルビル4階のショッピング & ダイニングフロアで、新店14店を含む30店舗以上がリニューアルオープン。今まで以上に楽しくバラエティ豊富なショッピングエリアに生まれ変わった。

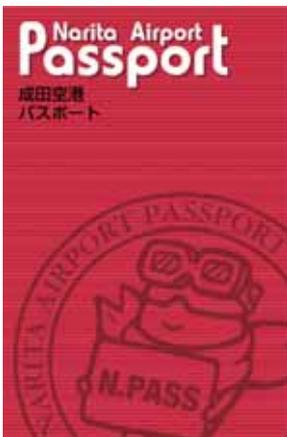
また、10月からは平行する2本の滑走路で旅客機を同時に離着陸させる新管制方式がスタート。これにより、1時間当たりの出発便の離陸可能回数が、最大32回から46回に増加した。発着枠が増えることで航空路線の新規就航が可能となり、格安航空会社(LCC)の就航などを通じた需要の掘り起こしに注目が集まっている。



A・B両滑走路での同時離着陸を実現した成田空港



リニューアルされた第2旅客ターミナルビル



N.PASSで空港をもっと身近に

成田空港をお得に利用できるN.PASSは、今年から取得の年齢制限がなくなり、14市町(千葉県：成田市・富里市・山武市・香取市・匝瑳市・印西市・芝山町・多古町・横芝光町・神崎町・栄町・酒々井町、茨城県：稲敷市・河内町)在住の人(小中学生向けパスポートを持っている人を除く)を対象に発行されている。空港への入場がN.PASSのみの提示で可能となるほか、空港内店舗での割引サービスや空港内駐車場利用への優待(空港内店舗の当日利用のレシート合計1,000円以上で、普通車1台につき3時間まで無料)が受けられるなど、特典が満載だ。

※くわしくは平日の午前9時～午後5時にNAA地域共生部・N.PASS担当(☎34-5858)へ。

「ソラからジェシカ」 世界に飛び立ったご当地映画

「ソラからジェシカ」は、市内の落花生工場を舞台にした、お笑い芸人の陣内智則さんが演じる寡黙な男とペルー人女性の心の触れ合いを描いたヒューマンドラマ。空援隊が誘致し、炊き出しや車両の手配などを通じてロケをバックアップしたこの作品は、撮影のすべてが市内で行われている。

沖縄国際映画祭に出品された本作は、6月に表参道で凱旋上映イベントが開催され、7月にはヒューマックス成田で期間限定の上映が行われた。

また、11月には日本航空の国際線機内で上映されるなど、世界的な成田のイメージアップに貢献。12月3日(土)～9日(金)には、銀座シネパトスでの上映が予定されるなど、成田発のご当地映画の「活躍」は、まだまだ続きそうだ。

市役所など、市内各地でロケが行われた

凱旋上映イベントでは表参道にレッドカーペットが

機内上映も行われ、その知名度はますます向上



拡大する「まちおこしのか」

「成田を元気にするため、自分たちにも何かできないか」。そんな思いから活動を開始した市の中堅・若手職員。空援隊の活動に追随する新しい力が、成田ブランド躍進の動きをさらに加速する。



情報発信班の打ち合せ。会議室にはさまざまな意見が飛び交う



定例会議は情報共有の貴重な機会

空援隊と連携して

連携して

「空援隊に続こう」

成田ブランド構築のため市内外で積極的に活動する空援隊に触発され、市でも中堅・若手職員を中心に、成田のイメージアップに貢献しようという機運が高まった。

こうして、部署の枠を超えて23人の市職員が集い、今年5月に結成されたのが「成田ブランド推進プロジェクトチーム」だ。その役割は、空援隊と連携して成田のイメージアップを図り、その魅力を市内外に向けて発信すること。

現在、チームは3つの班(グルメ班・ロケ誘致班・情報発信班)で構成され、ご当地グルメの開発やロケのバックアップなどの活動に取り組んでいる。

定例会議で

情報を共有

結成以来、グルメ班は、市民はもとより外国人にも親しまれるよ

うな新たなご当地グルメ「空を飛ぶあんぱん」の開発に取り組み、ロケ誘致班は「美男ですね」(TBS系列で7月～9月に放送)をはじめとするドラマ・CMなどを誘致するなど、さまざまな活動を展開。また、こうした取り組みを、市内外にPRするため、情報発信班によりウェブサイト「ロコナビナリタ」が公開された。こうした各班の個別の活動のほか、プロジェクトチームでは、メンバー全員が参加する会議を定期的に実施し、空援隊のメンバーも交えた意見交換を通じて取り組みの充実を図っている。

また、メンバーは、プライベートな時間にも時折顔を合わせ、各自の取り組みについて意見を交える。そうした場では、会議室では出なかったような独創的なアイデアが飛び出すこともあるとのこと。

プロジェクトチームの活動について、メンバーの一人、企画政策課・鎌田はこう語る。「班ごとに取り組みは異なっても、自分たちの活動を通じて成田をもっと元気になりたい、というメンバーの気持ちは一つ。皆と意見を交わしながら、成田の魅力をもっと引き出せるような活動を続けていきたいと思っています」



試作に取り組むグルメ班のメンバー

グルメ班 あんぱんに地元産の食材を

「ご当地グルメを通じて成田の魅力をPRしよう」と活動するグルメ班が現在取り組んでいるのは、小豆のほか、サツマイモやレンコンなどの地元産の食材をあんとして使用したあんぱんの開発。市民はもとより、外国人旅行者などからも愛されるご当地グルメを目指し、試作を繰り返している。
(あんぱんの開発状況は8・9ページで紹介)

ロケ誘致班 映像の力で地元をPR

映画やCMのロケを誘致し、そのバックアップに活躍しているのがロケ誘致班。映像の力で成田のイメージアップを図るべく、積極的な誘致活動に取り組んでいる。活動開始以来、多くの問い合わせが寄せられており、AKB48「偶然の十字路」PVや、連続ドラマ「贖罪」(WOWOWで平成24年1月から放送開始)など、これまでに37件のロケ誘致に成功している。



現在も、市内各地でロケが行われている

情報発信班 “ご当地”の話題をいち早く

空援隊やプロジェクトチームの活動などをPRし、成田のイメージアップにつなげる役割を担う情報発信班。市内の魅力的な情報をより効果的に発信するため、ウェブサイト「ロコナビナリタ」や広報なりたなどを駆使した広報活動を続けている。



身近な話題からレアな情報まで随時公開中



ブログ形式で 最新情報を発信中

ロコナビナリタ(<http://nrkuentai.com/>)は、「成田の魅力にもっと触れてもらおう」というコンセプトの下、9月から公開されているウェブサイト。空援隊やプロジェクトチームの活動のほか、ご当地グルメの開発状況や市内で開催されるイベントの紹介など、最新の情報をブログ形式で随時公開中だ。

「地元の美味」を空へ

プロジェクトチーム・グルメ班が手掛けるのは、機内食への採用も視野に入れた「空を飛ぶあんぱん」の開発。地元の食材を使ったご当地グルメを通じて全国、そして世界に成田をPRすべく、試行錯誤が続けられている。



青空をイメージしたスカイブルーのスカーフがトレードマークの「成田ソラガール」



グルメ班が焼き上げた、試作品第1号のあんぱん

地元産の食材で作る

「空を飛ぶあんぱん」

「地元食材を使ったスイーツで、成田をPRしよう」というコンセプトの下、グルメ班では、ご当地グルメの開発が進められている。

その中心になっているのは、女性の目線で「成田の新たなおもてなし」をPRするため、プロジェクトチームの女性メンバーにより結成された「成田ソラガール」だ。

ご当地グルメのテーマとして選んだのは、あんぱん。外国人への受けの良さ、歩きながらも食べられる気軽さが、参詣客にぎわう参道や、国内最大の国際空港を擁する成田にはぴったりと考えたのが、選択の大きな理由だ。

現在は試作品の開発が繰り返されており、その材料として主に使用されているのが、サツマイモや落花生などの地元農産物。また、レンコンや鉄砲漬けなど、あんぱんとしては意外性のある食材の使用も検討するなど、さまざまな可能性が模索されている。ソラガールは、将来的にはこのご当地グル

開発レポート

地元企業との協働を通じて

ソラガールのあんぱん作りは、試行錯誤の繰り返し。試作品第1号は、自分たちで生地を作り、持ち寄ったさまざまな食材の入ったあんを包んで、家庭用のオーブンで焼き上げた。現在、こうしたソラガールの活動には、開発に対するアドバイスや試作品の提供を通じて地元企業・農家などが協力。あんぱんに合うサイドメニューや季節限定メニューの提供なども検討されるなど、創意を凝らした官民協働のご当地グルメ開発が進められている。



地元企業にアドバイスを受けながら



さまざまな試作品の開発を通じ、「空を飛ぶあんぱん」の可能性が模索されている

メが機内食に採用されることを目指しており、「空を飛ぶあんぱん」として世界に愛される成田の新名物への期待は高まるばかりだ。

困難にも

前向きにトライ

順調に見えるあんぱんの開発だが、その完成への道のりには、多くのハードルも存在している。

「機内食は、食材の制約が厳しい。落花生など、アレルギーが懸念される食材の使用は難しいのでは」

協力企業からこうした指摘を受けるなど、素人が食品の開発に取り組み難しさを、彼女たちはたびたび実感させられる。

こうした課題に対し、ソラガールの公園緑地課・識名はこう語る。「目の前の問題を着実に解決して、一步一步進んでいくしかないですね。でも、あんぱんを通じて全国、そして世界に成田をPRするという未来に思いを巡らせながら開発に取り組むのは、楽しいですよ。将来的には、もっと活動の幅を広げて、市民の皆さんと一緒に色々なことに取り組みたいですね」

現在、あんぱんの完成時期は来年3月が目標。世界に愛される成田のご当地グルメ開発のため、ソラガールの挑戦は今日も続く。

クローズアップ

成富うどん
ご当地グルメの大先輩

「まるでパスタのよう」と、外国人からも好評の成富うどんは、海外からの旅行者も多い成田市内で、箸の扱いが苦手な外国人でもうどんの味を楽しめるようにと、富里市でうどん店を営む高根晴夫さんが考案。千葉県産の小麦を使って作られた麺は香りが高く、フォークでも食べやすい太さにカットされているのが特徴だ。現在、市内の複数の飲食店で提供されており、和・洋・中華・アジア風と、各店が創意を凝らした調理のバリエーションを楽しむことができる。世界に愛される“創作うどん”を目指し、成富うどんは今日も進化を続けている。

“トマトとチーズの冷たいアラビアータ”としても提供される



通常のうどん(左)と比べると、太さの違いは一目瞭然

花一 (成田市花崎町) 今井伸太郎さん

うどんは和食、というイメージがありますが、成富うどんは洋風や中華風の味付けにもしっかりとなじむのが特徴です。パスタとうどんの特徴を併せ持った独特な食感と、豊かな小麦の香りがほかの食材の風味を際立たせ、予想と違った仕上がりにつながることもあり、新メニューを開発することがとても楽しいです。

これからも、旬の食材を使用した新商品を開発していく予定ですので、ぜひ、地元食材をふんだんに使用したご当地グルメの味を楽しんでみてください。



不動 (富里市七栄) 高根晴夫さん

細切りで、パスタ感覚のうどんを作る際にこだわったのは、食べごたえのある強いコシと、どんな調理法にも調和する、豊かな香り。この両方を満たしたのが、八街市産の小麦を使った麺でした。おかげさまでご好評をいただき、現在、多くの店舗の協力を得て、提供させていただいています。

協力店の皆さんも、地元産の食材にこだわったレシピを考案してくださっているので、成富うどんをきっかけに“千葉県発のおいしさ”を全国・世界にPRできれば、と思っています。

郷土愛を育むきっかけに

成田空援隊隊長
諸岡良和さん



「これまでの空援隊の活動を振り返って」

成田の新しい魅力を掘り起こして地元を発展させよう、という活動の中で、わたし自身にとっても新たな発見がたくさんありました。

例えば、成富うどんのような当地グルメが近所のお店で提供されていたことや、市内のホテルが飛行機の撮影スポットとして立地に恵まれていることなどで、そんな発見を成田のイメージアップにつなげられるよう試行錯誤するのは、とても楽しかったですね。

また、表参道で開催した「ソラからジェシカ」の凱旋上映イベントは、前例のない取り組みだったため、参加者の動線の確保や交通規制の実施など、多くの課題がありました。これらの解決には四苦八苦しましたが、来場された方から「楽しかった」、「盛り上がったね」といった声をいただくことができ、とても大きな達成感がありました。

「活動」に対して、どのような反響があったか

個人的なことですが、県外の複数の知人から、テレビで空援隊の活動を知ったという旨の報告があり、メディアに取り上げられることの影響の大きさを実感しました。

そういう意味では、さまざまメディアに取り上げられている「ソラからジェシカ」への反響は大きいですね。空援隊にも、「ここで観られる」、「DVDが出ると出るの」と

いった問い合わせが寄せられていきます。わたしたちも誘致に関わり、微力ながらロケにも協力させていたただいた思い出深い作品なので、そうした声は今後の活動の励みになります。

「空援隊とプロジェクトチームの連携について」

市の職員の方々によるプロジェクトチームは、同じく成田の発展のために活動しているわたしたちにとって、とても心強い存在です。

目的へのアプローチの仕方は異なっているかもしれませんが、「成田を元気にしたい」という目的を共有している以上、協力し合える部分は多いはず。連絡を密に取り、情報

を共有しながら、これからも地元を発展のために互いに汗を流していければと思います。

「今後の活動について」

わたしは、住民の方が地元にもっと誇りを持ち、愛着を抱くようになってほしいという思いから、空援隊での活動を続けてきました。イベントの開催や、映画のロケ誘致などがそつたきっかけになってくれるなら、これ以上の喜びはありません。空援隊での取り組みに限らず、これからもさまざまなことにチャレンジして、成田の発展を後押しできるような活動の輪を広げていきたいですね。



1 「ソラからジェシカ」のロケに先立ち、佐向監督などの撮影関係者に市内施設を案内

2 「ソラからジェシカ」凱旋上映イベントでは、参道にレッドカーペットを敷くという奇抜な取り組みも

3 空援隊結成後初の活動として、外国人観光客を対象に参道で“お土産”を手渡した

取材を終えて

今回の特集では、官民が一体となって推進する、成田のイメージアップを目的としたさまざまな取り組みを取材しました。

市内では前例のないこうした動きは、成田空港を中心に大きな発展を遂げてきた成田市への、羽田空港国際化の影響の大きさを物語っています。

「遠い」「不便」という印象を抱かれがちな成田空港ですが、昨年開通した成田スカイアクセスを利用すれば、都心からの所要時間は最短で36分。空援隊やプロジェクトチームの活躍により、成田の魅力が市外に伝われば、もっと多くの人々が成田を訪れるようになり、地域活性化の可能性も広がるはずです。

しかし、そうした活動はスタートラインに立ったばかりであり、その効果は未知数です。今後、空援隊やプロジェクトチームに追隨した活動が市民の皆さんの間にも広がり、「地元を元気にしよう」という意識をより多くの人と共有できるようになれば、心強い限りです。

優秀な鉄道車両に贈られる「ブルーリボン賞」のヘッドマークを付け、成田空港へ走るスカイライナー